（別紙様式４）

令和5年9月14日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京服飾専門学校	昭和26年9月27日	山下　節子	〒　170-0002 （住所）　東京都豊島区巣鴨1-19-7 （電話）　03-3946-7321
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人池田学園	昭和51年9月10日	野間 憲治	〒　170-0002 （住所）　東京都豊島区巣鴨1-19-7 （電話）　03-3946-7321

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
服飾・家政	服飾専門課程	アパレル技能科衣装製作コース	平成22(2010)年度	－	－

学科の目的	学校教育法に基づき、高度な専門知識と技能習得をとおして創造性豊かで人格的にも優れた人材を育成し、ファッション業界全般、 服飾繊維産業界の発展に貢献。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	取得可能資格：色彩検定、洋裁技術検定 昨年度中退率：9%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間	220 単位時間	205 単位時間	938 単位時間	0 単位時間	487 単位時間
		○○ 単位	○○ 単位	○○ 単位	○○ 単位	○○ 単位	○○ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
100 人	122 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 56	人
■就職希望者数 (D)	: 42	人
■就職者数 (E)	: 24	人
■地元就職者数 (F)	2	人
■就職率 (E/D)	57	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	8	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	43	%
■進学者数	13	人

■その他

アルバイト8名、就職活動中11名

（令和　　４年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和4年度卒業生）

株式会社アダストリア、有限会社ビーシーコスチューム、有限会社シーズ、株式会社辻洋装店、株式会社やまと、株式会社TSIホールディングス、株式会社東宝コスチューム、株式会社サンシェル、株式会社玉屋、株式会社ビッグママ、株式会社クリエイティブギルド

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.tfac.ac.jp/course_post/アパレル技能科-衣装製作コース/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	115 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	58 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	115 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	58 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	○○ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	○○ 単位
うち必修授業時数	○○ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	○○ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	○○ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	4 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	5 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	4 人
計		13 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	5 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育編成委員会での企業委員や、産学連携企業と毎年2回以上の授業検討機会を設けて学科目的、習得目標に沿ったカリキュラムの検討と作成をおこなっている。企業・団体委員とはGPAをもとにした習学成果や評価について共有をはかり。とくに企業連携実習の充実について、企業・業界団体からの助言や協力をいただいている。それにより実務を反映した技術の習得や将来を見据えた業界理解を深め、即戦力になる人材育成の取り組みを広げ、さらに教職員においても知識向上のための研修や見学機会の設置して最新の業界の動向を踏まえた授業作りに役立てている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本校での教育課程編成委員会は、外部の企業・団体教育編成委員と本学の学科長クラスの職員により構成されている。
位置付けとしては授業を行っている教務と独立し、学校運営全盤を司る運営部に対して直接に提言と報告が行える位置付けとなる。委員会で出された提言や報告は運営部において他教科とのバランスや関係企業・団体との連携を図りながら次年度計画に織込み、必要に応じて理事会の承認を得ながら学科構成やカリキュラムの編成を行う。その後、運営部から学科教務へ改善指示される運びである。教育編成委員会の開催については前期末（8月）に次年度のカリキュラム編成について検討し、年度末（3月）には改善や提言の実施状況、効果の確認、改善点について確認するために開催している。委員会の検討結果は運営部に都度報告され、また日々の授業運営においては学科長や上位教職員が中心となり、即時にシラバスの修正や改善の対応していく。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年8月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
境　泰志	日本アパレル・ファッション産業協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	①
高橋 英一郎	ソーイングアサヒ株式会社	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	③
太田 えりこ	有限会社ビーシーコスチューム	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	③
山下 節子	池田学園 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―
鷺　典子	池田学園 アパレル技能科学科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―
中島 由紀子	池田学園 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―
古賀 由紀夫	池田学園 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―
リビ　裕子	池田学園 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―
上野　菜月	池田学園 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（3月、8月）
（開催日時（実績））
第1回　令和5年3月15日　14:00～16:00
第2回　令和5年8月25日　14:00～16:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
プレゼンテーション力の強化対策が令和4年度の課題として上がり、産学連携をはじめとした授業内でのプレゼンテーション実習を必ず行うように改善してきた。結果として就職活動の場も含めて、効果は着実に上がっているとの報告。また同回の委員会では新たな課題として、生産技術の習得度が低いのではないかとの意見があり、令和5年のシラバスにおいて対応する実習時間数を増やし、実習内容も提言を多く織り込んだ。さらに生産技術の実習については学生増加に対して機材の不足が意見として上がり、4月の開講までに工業ミシンと穴かがりミシンなどの機材を購入した。
今後の課題としては引き続きプレゼン力の強化と知識面の強化を図るため、シラバス内へ発表機会の織込みを図る。

（別途、以下の資料を提出）
＊　教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
＊　教育課程編成委員会等の規則
＊　教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－１
＊　学校又は法人の組織図
＊　教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
1年次では職業意識を持つことを第一に、企業講師を招いた講座や講演を中心に行い、職業意識と基本技術を習得した2年次からは企業からの実務担当者講師を派遣いただいて、実務をもとにした実習を行う。実習や演習が単なる体験とならぬようにプロセスの理解や関連する業務にも理解を深めてたり、授業での成果物の市場流通を目指すことで意欲の向上に期待している。円滑な授業運営や、学生評価方法、習熟度の確認においては本校教員が授業に同席して授業運営をサポートする体制で行っている。
現在、就職で必要となってきたDXや情報分野への対応も含めて幅広い企業からの実務経験の場を作ることも行っている

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員作成による年間授業シラバスをもとに企業担当者との打ち合わせを行い、講座の内容に応じた実技実習や講演講座を行う。企業からは多くの作品資料や文献資料を教材として借受けたり、製作技術や生産技術の習得については現場での特殊機材を利用した実習を実務を担当する企業講師によって指導をいただく。企業講師には技術の習得具合などの評価をいただき、最終評価は担当教員が企業講師の評価を加味して、学内基準と照らして評価を行なっている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
SNSマーケティング	SNSで会社やフリーランスでの仕事で必要な活用方法を学ぶ。アカウントの開設から運用方法を学び、集客やブランディング方法、各SNSの特徴を理解する。	株式会社レイワンダッシュ
産学連携実習	服飾の企画・製造・販売を行なっている企業との連携。	株式会社SHINDO 佐藤産業株式会社 有限会社ビーシーコスチューム

（別途、以下の資料を提出）
＊　企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
・　学科長ならびに事務長等は、毎年度、外部関係企業や団体による研修機会を生かし、研修の体系、研修先、目的及び内容を定めた研修計画を策定するものとする。
・学科長ならびに事務長等は、所属職員に対し、職務の遂行上必要な知識、技能等を修得させるため、職場研修を行うよう努めなければならない。
・本校は、前項の研修が円滑に運営されるため、必要な指導又は援助を行わなければならない。
教職員各自の実習技術の向上のため、技能勉強会と生産技術や新たな素材への知識の取得のために業界団体のセミナーや展示会への参加を義務付けている。また指導力の向上についても学生とのエンゲージメント術などのトレーニング研修を行い指導方法の質の向上を図っている。これらの職員研修は職務規定に付属する教員研修規定により、校長・理事長をはじめとする上級職員が職員に受けさせることも義務としている。さらに個々の教員に対しても技術の向上や知識、指導力の向上を目的とした企業研修や研究実習へ参加をする場合においても、費用は全て学校が負担し、勤務時間の調整や代休取得を可能として受講が出来る環境を整えている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　お直し業研究　　連携企業等：株式会社ユニクロ
期間：　2022.4.22　　対象：授業担当教員
内容　ユニクロ社の補正室見学

研修名：　デザイン業界ヒヤリング　　連携企業等：株式会社ユメックス
期間：　2022.5.10　　対象：授業担当教員
内容　グラフィック系デザインの仕事

研修名：　デザイン業界ヒヤリング　　連携企業等：株式会社ハキハキデザイン
期間：　2022.5.23　　対象：授業担当教員
内容　グラフィック系デザインの仕事

研修名:	舞台衣装製作のアトリエ見学	連携企業等:	有限会社ビーシーコスチューム
期間:	2022.7.8	対象:	授業担当者教員
内容	舞台衣装製作の現場を見学訪問し、実際の業務を見学		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等:	ユニクログループ人事部
期間:	2022.4.1	対象:	進路指導教職員
内容	業界の動向、採用求人の傾向、今後の事業計画		
研修名:	DX化授業への取り組みについて	連携企業等:	株式会社アイリスオーヤマ
期間:	2022.4.4	対象:	全教職員
内容	インタラクティブボードの操作・活用方法		
研修名:	DX化授業への取り組みについて	連携企業等:	株式会社Too.
期間:	2022.4.13	対象:	全教職員
内容	ipadを活用した授業方法		
研修名:	アパレル業界の魅力	連携企業等:	株式会社アストリア
期間:	2022.4.14	対象:	進路指導教職員
内容	アパレル業界の動向把握とキャリアプランについて		
研修名:	衣装製作業界の仕事	連携企業等:	(株)タカラ
期間:	2022.5.31	対象:	進路指導教職員
内容	衣装製作系企業の現場紹介と現在の募集状況		
研修名:	衣装製作アトリエの仕事研究	連携企業等:	卒業生
期間:	2022.6.14	対象:	進路指導教職員
内容	衣装製作志望学生の就職指導のポイント		
研修名:	お直し業界研究	連携企業等:	(株)ツヅキ
期間:	2022.7.1	対象:	進路指導教職員
内容	お直し業界の動向把握とキャリアプランについて理解する		
研修名:	学生指導研修	連携企業等:	(株)働く君と
期間:	2022.8.3	対象:	全教職員
内容	多様な価値観を持つ学生を理解し、目標を立てて就職、卒業まで成長を見守り指導する心構えを学ぶ。		
研修名:	模擬授業・勉強会	連携企業等:	学内
期間:	2022.8.18～8.19	対象:	全教職員
内容	学生指導力・授業の展開力向上のため、模擬授業による勉強会を実施する。		
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	ヨーロピアンモード展見学	連携企業等:	文化学園服飾博物館
期間:	2023.5.15	対象:	造形系教職員
内容	ヨーロッパの女性モードの変遷を学ぶ。		
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等:	株式会社アズノウアズ
期間:	2023.6.19	対象:	授業担当者
内容	SDG's新規事業(リメイク商品)		
研修名:	企業訪問研修	連携企業等:	(株)SHINDO
期間:	2023.7.10	対象:	授業担当者
内容	服飾繊維資材の企画・製造・販売を行う企業を通して、業界の現在を学ぶ。		
研修名:	縫製工場見学会1	連携企業等:	株式会社辻洋装店
期間:	2023.7.31	対象:	授業担当者
内容	縫製工場を見学し、最新の設備機械と工場設備を視察する。		
研修名:	縫製工場見学会2	連携企業等:	ソーイングアサヒ株式会社
期間:	2023.8.3	対象:	授業担当者
内容	縫製工場を見学し、最新の設備機械と工場設備を視察する。		
研修名:	縫製工場見学会3	連携企業等:	株式会社ツヅキ
期間:	2023.8.3	対象:	授業担当者
内容	縫製工場を見学し、最新の設備機械と工場設備を視察する。		

研修名:	バレエ鑑賞・舞台衣裳見学	連携企業等:	NBA バレエ団 有限会社B.C.コスチューム
期間:	2023.8.5	対象:	授業担当者
内容	アトリエ見学から、実際のステージ上での衣装を見学。デザインの手法を知る		
研修名:	EC倉庫見学会	連携企業等:	(株)アッカ・インターナショナル
期間:	2023.8.24	対象:	ビジネス系教職員 造形系教職員
内容	最新の物流倉庫を見学し、最新の設備機械と施設を視察、アパレル物流についての知見を深める		
研修名:	イヴ・サンローラン展見学	連携企業等:	国立新美術館
期間:	2023.10.10	対象:	授業担当者
内容	ファッションに影響を与えた作品とその足跡を学ぶ		
研修名:	アパレルビジネス研修	連携企業等:	株式会社ベネフィット
期間:	2023.10.20	対象:	授業担当教員
内容	商品企画として、Tシャツのグラフィックデザイン手法		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	防犯研修	連携企業等:	巣鴨警察
期間:	2023.6.12	対象:	全教職員
内容	多発する詐欺事件や闇バイトの現状の説明及びその対策を学ぶ		
研修名:	教員教職課程研修	連携企業等:	(社)東京都専修学校各種学校協会
期間:	2023.6.16～11.14	対象:	学科長
内容	職業教育の制度、社会的位置付け、教育指導技術、学生支援の仕方、学校マネジメント等を学ぶ		
研修名:	普通救命講習会	連携企業等:	豊島区役所
期間:	2023.8.1	対象:	全教職員
内容	学校での基本的な救命措置を学ぶ		
研修名:	自己評価研修会	連携企業等:	特定非営利活動法人 職業教育評価機構
期間:	2023.8.3	対象:	担当教員
内容	自己評価の実施と報告書の作成方法などを学ぶ。		
研修名:	学校関係者評価研修会	連携企業等:	特定非営利活動法人 職業教育評価機構
期間:	2023.8.29	対象:	担当教員
内容	学校関係者評価の効果的な実施方法と改善に向けた取り組み方		
研修名:	教員教職課程研修	連携企業等:	学内
期間:	2023.12.25	対象:	全教職員
内容	教員教職課程研修会の参加報告会を行い学生指導のあり方を学ぶ。		
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等:	TSIグループ、(株)ステップス、 (株)アズノウアズ、(株)上野商会
期間:	2024.1.15	対象:	全教職員
内容	アパレル業界の動向把握とキャリアプランについて		

(別途、以下の資料を提出)
＊　研修等に係る諸規程
＊　研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
＊　研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
学校評価委員会は学外の委員や卒業生で組織されており、学内組織の上位にある運営部へ直接提言出来るように位置付けられている。学校評価委員会は学校職員全員が参加する自己評価委員会の評価報告をもとに、透明性と公平性の観点から評価の点検、検証と確認、必要に応じては助言や改善提案を行う。評価の結果は運営部に報告され、理事会でも報告される。報告後は本校の教育理念や目標と、学校評価の規定に照らし合わせて次年度の学校運営や授業に反映し、ホームページなどを通して一般公表をする運びとなっている。
委員については運営部が学外の関係者から選考し、学校長・理事長の承認を受けて委託を行なっている。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	A 学校の理念に基づいた教育が行われているか B 学校における職業教育の特色は何か C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか D学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか E 各学科の教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて方向づけられているか
（2）学校運営	A 目的等に沿った運営方針が策定されているか B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか D 人事、給与に関する規定等は整備されているか E 教務・財務当の組織整備など意思決定システムは整備されているか F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか G 授業評価の実施・評価体制はあるかH 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか N 職員の能力開発のための研修等が行われているか
（4）学修成果	A 就職率の向上が図られているか B 資格取得率の向上が図られているか C 退学率の低減が図られているか D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか
（5）学生支援	A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか B 学生相談に関する体制は整備されているか C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか E 課外活動に対する支援体制は整備されているか F 学生の生活環境への支援は行われているか G 保護者と適切に連携しているか H 卒業生への支援体制はあるか I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
（6）教育環境	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか C 防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	A 学生募集は、適正に行われているか B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか C 学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか C 財務について会計監査が適正に行われているか D 財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか D 自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか C 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
第7回「学校関係者評価委員会」での自己評価対する意見を取り入れた方策実施を含む自己点検・評価報告書をまとめ、理事長をはじめとした学校運営基幹職員、教職員も参加した第8回学校関係者評価委員会を10月に開催開催予定。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年8月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
境　泰志	一般社団法人 日本アパレルファッション産業協会	令和4年4月～4年間	関連業界委員
齊藤　雅久	東京日暮里繊維卸協同組合	令和4年4月～4年間	地域団体委員
池田 竹谷	株式会社オルウェイズ	令和4年4月～4年間	卒業生
山下 敏秀	株式会社たかくら新産業	令和4年4月～4年間	企業等委員
若林　由美	高知大学	令和4年4月～4年間	教育関係

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））
URL:　URL:https://www.tfac.ac.jp/school_info/#subject
公表時期:　公表時期：令和5年6月末頃

（別途、以下の資料を提出）
＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－２
＊　自己評価結果公開資料
＊　学校関係者評価結果公開資料（自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の取り組みや、日常からの教育活動、学生の様子、社会貢献、就学成果などの多くの情報公開については毎日更新のホームページやSNS、訪問見学などで情報提供を行なっている。委員会の開催だけでなく日頃からの教職員との交流、意見交換、学校評価の場として懇親会を年に一回以上開催して開かれた学校運営を目指している。また自己評価、学校評価について包み隠さず公開し、正しく評価を判断出来るように情報を提供している。具体的な公開方法は以下の方法で行なっている。
①パンフレット広報物（毎年3月末～）の配布
②学内広報誌（年４回発行）の配布
③ホームページの毎日更新（３～９月までに順次基本情報を更新）
④懇親会（毎年３月）の開催
⑤企業との相互訪問

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	教育理念／教育目標
（2）各学科等の教育	定員／カリキュラム／進級修業卒業要件
（3）教職員	教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ・研修／実践的職業教育への取組
（5）様々な教育活動・教育環境	インターンシップ・研修／学内学外イベント行事
（6）学生の生活支援	就職支援／校内報／サークル活動
（7）学生納付金・修学支援	奨学生進学制度
（8）学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、人件費
（9）学校評価	自己点検自己評価報告書／学校関係者評価
（10）国際連携の状況	留学生受け入れ
（11）その他	―

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））
URL:　https://www.tfac.ac.jp/school_info/#subject
公表時期:　令和5年4月

（別途、以下の資料を提出）
＊　情報提供している資料
（備考）
・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする（別紙様式１－２、２－１、２－２、３－１、３－２、４、５、６、７、８についても同じ。）。

授業科目等の概要

（服飾専門課程 アパレル技能科衣装製作コース）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ベーシックドローイング	デッサンを通して表現力、想像力の育成から 実務に則したスタイル画を基本とした描画表現力を身につける。	1・前期	35				○	○		○		
2	○			カラー	AFT色彩検定3級公式テキストを使用し、3級の取得を目指すことを主目的とし、実務にむけた イメージに合わせたカラーコーディネート、パーソナルカラー(人それぞれに似合う色概論を学ぶ。	1・前期	35		○			○			○	
3	○			ファッション素材学	アパレル製品の素材としての繊維、糸、生地を 理解し、製作、販売、衣生活に役立てる。 素材組成から各種素材、織、柄名称、素材加工、 取り扱いケア	1・後期	57.5		○			○		○		
4	○			服飾技術実習	平面で製図したものが、用布を裁断・縫い合わせ ・立体化して着用する服となっていく工程の理解 と縫製仕様の習得	1・通年	442.5				○	○		○		
5	○			ＳＮＳマーケティング	SNSで会社やフリーランスでの仕事で必要な活用方法を学ぶ。 アカウントの開設から運用方法を学び、集客やブランディング方法、各SNSの特徴を理解する。	1・後期Ⅱ	27.5		△		○	○			○	○
6	○			ドレーピング	平面製図でおこしておいたものを、立体ボディー を使用し、実際の布（シーチング）をあてダーツ をとる事によって、実際のフォルムに合わせて いきパターンの仕組みを理解する。	1・通年	87.5				○	○		○		
7	○			服飾史	古代から現代までの洋服の歴史を知る。 素材から形まで	1・前期	35		○			○		○		
8	○			就職ガイダンス	就職に関する基本姿勢を醸成、対応策について ガイダンス	1・後期	57.5		○			○		○		
9	○			ベーシックデザイン	想像力、造形的バランス感覚を身につけ 自身のクリエーションについて、プレゼンテーション力を養う。	1・後期	52.5			○		○		○		
10	○			Ｍａｃ演習	Macを使用したグラフィックソフトの技術取得 イラストレーター・フォトショップの初～中級 操作と実践、パワーポイントを使ったプレゼン テーションツール作成　各ソフトウェアの 連動操作取得	1・通年	95			○		○		○		
11	○			テクニカル工芸	立体スモッキング・つまみ細工・革花・装花 コルセット／帽子／編み物　装飾テクニック習得	2・通年	87.5				○	○			○	
12	○			産学連携実習	服飾の企画・製造・販売を行なっている企業 との連携。	2・通年	87.5		△		○	○	○	○		○
13	○			卒業製作実習	卒業制作ファッションショー衣装制作 衣装のフォルム、バランス感覚を掴む	2・後期Ⅱ	110				○	○		○		
14	○			服飾製図	アイテム製図、制作構成　素材の適応性を学ぶ また、軽衣料　中衣料、重衣料の製図を順番に学ぶ事で理解を深め、応用力を付ける	2・通年	185				○	○		○		
15	○			就職キャリアデザイン	自己理解、仕事理解を通して自分のキャリア形成を考える	2・前期	35		○			○		○		
16	○			卒業制作ファッションショー 制作実習	卒業修了ショーに向けた作品テーマ、 カテゴリー企画。グループワーク。	2・前期	35				○	○		○		
17	○			衣装製作実習	衣装製作者、衣装デザイナーとしてのスキルを磨く 衣装のフォルム、バランス感覚を掴む	2・前後期Ⅰ	235				○	○		○		
18	○			デザインワーク	想像力、造形的バランス感覚を身につける。	2・通年	92.5				○	○		○		
19	○			ＰＣワーク	Windowsパソコンの操作方法と、ビジネスソフト （Word・Excel・Powerpoint）の使い方を習得する。 基本的なタイピングからWordを使った文章作成技術を習得。 Excelを使って表やグラフの作成技術を習得。 Powerpointを使ってプレゼンデータを作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことを目指す。	2・後期	57.5			○		○		○		
合計					１９科目				1850 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 1700時間以上の履修時間を修めていること、及び各科目の総合評価がＣ(6)以上であること。	１学年の学期区分	3 期
履修方法： 対面及びオンライン	１学期の授業期間	平均13 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。